



新潟での二十五年に その前の二十年をかさねて

口腔病理学分野・歯科病理検査室 ● 朔 敬

新潟に赴任してすでに25年がすぎました。わたしの講義・実習をとおして病理学と口腔病理学を勉強した皆さんは、1,000人をこえるのではないかとおもいます。千人のお名前すべてはでてきませんが、同窓会名簿をめくると、どの学年にもお顔とお名前を記憶しているひとが必ずあります。わたし自身が大学でおそわった先生がたのお名前がすべてでてくるかという覚束ないので、同窓生の皆さんもそうでしょう。しかし、ふりかえって、わたし自身の人間形成に重要だったとおもう先生がたとの出会いがありましたので、この機会にわたしの学生時代の先生をおもいだしてみました。

まず、教養部で生物学をおそわった今立源太良先生。土壌生物カマアシムシ Protura の研究者・生態学者で、今立先生の研究資料整理のお手伝いしたことがご縁で個人的にもお付き合いがはじまり、わたしも共著者にしていただいた論文が日本昆虫学会雑誌に数編掲載されています。後年、わたしが海外調査研究にかかわるようになったのは、京都大学で今西錦司－吉良竜男・梅棹忠夫の系譜にあった今立先生のフィールドワークの影響だとおもいます。

歯学部専門課程の一年生になって最初にラテン語と解剖学をおそわったのが桐野忠大先生でした。骨学の試験で満点をとれたのとクラブ活動のオーケストラの顧問をなさっていたので殊更よくそのお話しぶりをおもいだします。同じ学年では、歯科理工学が苦手で、四度再試験をうけさせていただきました。神沢康夫教授は怖い先生だとおもいこんでいましたが、夏休みに研究室にかよわせてくださいましたので、ノートをつくりなおすことができました。そのA4判ノート四冊はまだ保存していて、わたしの試験に落第した学生にみせたりしてきました。この勉強をとおして講義ノートづくりに開眼したので、それはわたしの新潟大学での学生指導の基盤になりました。鲁迅を東北大学で指導された解剖学の藤野先生のように懇切丁寧なノート添削はできませんでしたが、わたしも「藤野先生」をお手本にという意識はありました。

ついで、生理学の市岡正道教授。友人と三人で月に一度教授室にたずねますと、壁に対して斜めにおかれた机から椅子をずらして、ソファにすわったわれわれとお話しされました。いつも＜藤村の羊羹＞などを用意しておいてくださいました。学者というのは市岡先生のようなかたのことをいうのだと体験的に理解したので、わたしは基礎科学の研究者に向かないことを自覚しました。進路の相談にもっていただきましたが、生理学や生化学ではなく、臨床科学としての病理学の道を選択したのは、

市岡先生のおかげです。二年生になると病理学が始まり、総論の秋吉正豊教授は出席をとるのに学生の席をまわってひとことずつお話をされました。出席とりで講義時間の半分はなくなりました。わたしが実習中に皆さんの出身地や部活動をたずねていたのは秋吉先生の真似をしていたのです。口腔病理学の石川梧朗教授はご自身の執筆された大部の教科書をよむかのような講義をされたので、その当時、病理学だけは進路の候補にありませんでした。石川先生とは違うようにとこころがけてきたのが、わたしの新潟大学での病理学教育の基本になっていたとおもいます。

以上、自分の先生たちのことをおもいだすと、どうも基礎系の先生の印象が強かったようですので、皆さんも今年度で定年で退職される生化学の織田公光教授や、もしかするとわたしあたりまではおもいだしてもらっているでしょうか。80人クラスのころは全員というわけにはいきませんでした。最近40人程度なので学生さんの名前と顔が一致するようになり、これには喜びがありました。しかし、学外で声をかけられてもわからないことがあるので、教室という特殊空間に限られた記憶だったのかもしれません。このように名前をおぼえるのが教育者の基本だという思い込みというかそういうストレスはわたしにとっては相当大きかったようでした。

今回紹介させていただいた先生がたは新潟大学歯学部同窓会の皆さんとは関係がないので、同窓会誌をまちがえているのでは？と違和感をもたれたかもしれません。しかし、わたしは先生というのはそういうものだったのかとこのごろになって気がついたので長々とかかせてもらいました。つまり、わたしの恩師の先生がたがお話になったことやその具体的なお言葉を、わたしはまだ忘れずにいるのですが、たぶん先生がたは特段のお話をされたわけではなく、その時々わたしの精神状態が勝手にどこかの一節だけを自分の都合のいいように強調してきたのだらうとおもいかえます。そういうことのために先生というものがあるのかもしれないと、自分自身の教師生活をふりかえって、かんがえるようになったのです。新潟大学で、もしわたしでもそういう、学生さんの役にたつことがあったとすれば嬉しいのですが・・・